

トニー賞受賞演出家 原作
ジュリー・テイモア × シェイクスピア

夏の夜の夢

とにかく
素晴らしい！
NYTimes

この世のものとは思えない、
陽気で怖くて、
そして面白い
Hollywood Reporter

圧倒させられる作品だ
The Huffington Post

うっとりするほど美しく、
虜になるほど魅惑的。
Newsday

なんて想像力を
掻き立てる
作品なんだ！
Theater Mania

天才的な
視覚的想像力が
溢れている！
トロント国際映画祭

感性と想像力を
刺激する作品
Variety

素晴らしいに
驚くばかり！
Showbiz 411

業界紙絶賛の大ヒット舞台が、海を越えて日本の映画館へ

EALING STUDIOS AND LONDINIUM IN ASSOCIATION WITH THEATRE FOR A NEW AUDIENCE PRESENT A MIDSUMMER NIGHT'S DREAM A JULIE TAYMOR PRODUCTION STAGE PRODUCTION PERFORMED AT THE POLONSKY SHAKESPEARE CENTER
MUSIC BY ELLIOT GOLDENTHAL PLAY THE WILLIAM SHAKESPEARE DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY RODRIGO PRIETO, A.S.C. A.M.C. CHOREOGRAPHY BY BRIAN BROOKS EDITED BY BARBARA TULLIVER, A.C.E. SETS BY ES DEVLIN LIGHTING BY DON HOLDER
COSTUME DESIGNER BY CONSTANCE HOFFMAN PRODUCTION DESIGNER BY SVEN ORTEL EXECUTIVE PRODUCERS AIGERIM JAKISHEVA JEFFREY HOROWITZ ROBERT CHARTOFF PRODUCED BY LYNN HENDEE BEN LATHAM-JONES DIRECTED BY JULIE TAYMOR

LONDINIUM

EALING
STUDIOS

OMNIVERSE
VISION

舞台が進むにつれ、この世界の虜になる

—— デヴィッド・ルーニー (The Hollywood Reporter)

この上なく美しく、最高に魅惑的な舞台だ

—— Newsday

ジュリー・テイモアに限界はない。

彼女の想像力で舞台は無限に形を変えるのだ

—— ペン・プラントレイ (The New York Times)

Introduction

2014年、ニューヨーク・ブルックリンにある Theatre for a New Audience (TFANA) で上演された舞台「夏の夜の夢」は、トニー賞受賞演出家ジュリー・テイモアのプロダクションとして豪華なスタッフ・キャストを迎え前評判も高く、チケットは即完売した大ヒット舞台となった。独創性溢れる演出で観客を魅了した舞台を、ジュリー・テイモアに加え、「ウルフ・オブ・ウォールストリート」の撮影監督ロドリゴ・プリエトやアカデミー賞受賞作曲家エリオット・ゴルドンサルも参加し、映画としても見応えのある傑作となり、2014年トロント国際映画祭でプレミア上映され批評家の賞賛を浴びた。

「夏の夜の夢」は、愛とそれに秘められたパワーについてあらゆる側面から描いた、シェイクスピアの作品の中でもっとも楽しい戯曲だ、とテイモアは言う。映画化にあたり、生の舞台を複数のカメラで撮影するだけでなく、配置をコントロールできるように撮影日を数日追加し、動くカメラとステディカムを駆使して舞台上のエネルギーやダイナミックさを余すことなくとらえ、様々なアングル・クローズアップ・役者のリアクションなど、生の舞台の観客の目が届かないシーンを収めることに成功した。

映画としてスクリーンに蘇る舞台は、登場人物たちの心を深く捉え、感情を揺さぶられる作品になっている。映画版だから味わえる、テイモアが織りなす魅惑の世界「夏の夜の夢」をお楽しみください。

Story

4つの話が見事に絡み合い紡がれるドラマ「夏の夜の夢」。結婚間近のアセンス公シーシアスとアマゾン国のヒッポリタ、喧嘩中の妖精王オーベロンと女王タイターニア、森で恋の駆け引きを繰り広げる4人の恋人たち、そしてシーシアスとヒッポリタの結婚式の前夜に演じる舞台を練習している一団。彼らが一同に夏至の夜の森に集まったことから巻き起こる、面白くも幻想的なヒューマンドラマ。テイモアは、この舞台で光と影のコントラストを駆使して、力強く魅惑的な「愛」の幻影を表現した。

【キャスト】 バック: キャサリン・ハンター (1991年「貴婦人故郷に帰る」でローレンス・オリヴィエ賞最優秀女優賞受賞)、
オーベロン: デヴィッド・ヘアウッド (ブラッド・ダイヤモンド)、タイターニア: ティナ・ベンコ (LAW & ORDER:
性犯罪特捜班)、アセンス公シーシアス公爵: ロジャー・クラーク、アマゾン国女王ヒッポリタ: オクウィ・オクボクワシリ、
イジマス: ロバート・ラングドン・ロイド、ハーミア: リリー・イングラート、ディミトリアス: ザック・アップルマン
(舞台「戦火の馬」)、ライサンダー: ジェイク・ホロウィッツ、ヘレナ: マンディ・マズデン、ボトム: マックス・カセラ
(「ブルージャズミン」)、クイーンズ: ジョー・グラフィニ (「ディア・ハンター」)、フルート: ザッカリー・インファンテ、
スターヴァリング: ウィリアム・ユーマンス、スナウト: ジェイコブ・ミンネトレント、スナッグ: ブレンダン・アヴェレット

【スタッフ】 演出: ジュリー・テイモア、音楽: エリオット・ゴルドンサル、撮影: ロドリゴ・プリエト (A.S.C. A.M.C.)、
振付: プライアン・ブルックス、編集: パーバ・テュライヴァー (ACE) (「レディ・イン・ザ・ウォーター」)、
装置・美術: エス・デヴリン (ロンドン五輪閉会式担当)、衣裳: コンスタンス・ホフマン (トニー賞ノミニー)、
照明: ドナルド・ホルダー (「ライオンキング」でトニー賞最優秀照明デザイン賞を受賞)、
プロダクションズ: Sven Ortel, プロデューサー: リン・ヘンティ (P.G.A.), ペン・レイサム=ジョーンズ

配給:  カルチャヴィル合同会社 info@culture-ville.jp 提供: Omniverse Vision, Ealing Studios

11月13日金よりTOHOシネマズ 日本橋 ほか全国順次公開!!

www.culture-ville.jp

上映時間は公式ホームページ
上映劇場へお問い合わせ下さい

鑑賞券情報

一般: 3000円 / 学生: 2500円

※入場時要学生証